

RACE REPORT




 Round.03 **SUGO**
第3戦 スポーツランドSUGO

2024年6月22日(土)

予選

天候：晴れ 路面：ドライ

#38 阪口 晴南

予選：12番手

#39 大湯 都史樹

予選：5番手

大分県日田市のオートポリスで行われた第2戦から、約1ヶ月のインターバルで、2024年の全日本スーパーフォーミュラ選手権は第3戦を迎えた。舞台は宮城県のスポートランドSUGO。1周のコース長が短く、アップダウンに富み波乱も多い難攻不落のコースだ。

第2戦では阪口晴南が予選4番手から入賞、開幕戦で苦しんだ大湯都史樹も予選で11番手につけるなど、上昇への兆しを掴んだVERTEX PARTNERS CERUMO・INGINGは、さらなるポジションアップ、そして2台揃っての入賞を目指すべく6月22日(土)の予選日に臨んだ。

PRACTICE フリー走行

 6月22日(土) 9:10~10:40 天候：晴れ 路面：ドライ
 ベストタイム #38 阪口晴南 1'07.203 / #39 大湯都史樹 1'06.133

予選日となったこの日のスポーツランドSUGOは晴天。6月も下旬となり、東北の山間にあるコースと言ってもグングンと気温が上昇。気温28度/路面温度38度という暑さのなか、午前9時10分からフリー走行がスタートした。

VERTEX PARTNERS CERUMO・INGINGの2台は、阪口、大湯ともコースオープンからピットアウト~インを繰り返しながら午後の公式予選を見据えたセットアップを続けていった。ただ、走り出しのコースコンディションはあまり良い状況ではなかったか、コースアウトしたりブレーキをロックさせる車両が多く、開始から20分というタイミングでは、馬の背コーナーで#6 太田格之進がクラッシュ。車両回収のため午前9時40分までセッションは中断された。

再開後も2台はセットアップを続けていくことになるが、終盤残り17分というタイミングでは、大湯が1分06秒301にタイムアップ。モニターの最上位につける。「いろんな要因がありますが、第2戦までの実績がある方向に寄せて持ち込んだことが功を奏しています。僕が知っている速いときの感触に寄せられています」という大湯は、チェッカー間際のアタックシミュレーションでもセクターベストを連発すると、1分06秒113までタイムを縮め、このフ

リー走行を最速で終えることになった。昨年、移籍前に予選で見せてきた大湯の一発のスピードがいよいよ戻ってきた。「良かったですね。開幕から苦しんだなかで、チームがここまで準備してくれてくれたことが実りはじめています」と大湯。

一方の阪口は、アタックシミュレーションで1分07秒203というタイムを記録し11番手となった。「きつかったです」と阪口はフリー走行の印象を語ったが、この走行で得られたものを午後の予選に活かすべく、エンジニアたちと入念な打ち合わせを行っていった。



QUALIFY 公式予選

6月22日(土) 14:00~14:42 天候:晴れ 路面:ドライ
ベストタイム #38 阪口晴南 1'06.171 / #39 大湯都史樹 1'05.764

で、縁石にわずかに乗りすぎてしまい、コースオフを喫してしまった。これでタイムは1分41秒764というものに。予選は総合で12番手という位置となってしまった。阪口は自らのミスを悔やんだが、ただ感触が良くなっているのは事実だ。

一方の大湯は、きっちりとアタックを決め1分05秒764を記録。これで5番手につけてみせた。もちろん今季最上位グリッドでチームとしても嬉しい結果にはなったが、上位陣、特にポールポジションとの差があり大湯としては悔しさを覚える結果となった。

午前から続き晴天に恵まれ、気温31度/路面温度50度というコンディションのもと迎えた午後2時からの公式予選。まずはQ1のA組に出走したのは大湯だ。

フリー走行ではトップタイムを記録し、その切れ味鋭いスピードが戻ってきていた大湯は、一度アウトラップをこなしピットに戻った後、ニュータイヤを履き入念にウォームアップ。3周目に1分06秒448というタイムを記録した。

もちろんフリー走行でのタイムが良かったことから、しっかりとQ2に繋げることを意識し、わずかなマージンを保ってのアタックではあったが、結果としてはQ1のA組で4番手というもの。Q2進出という目標はしっかりと果たすことができたが、大湯にとってはQ2に向けてわずかに不安を覚える順位にもなった。

続くQ1のB組に出走したのは阪口だ。フリー走行ではあまり良い感触ではなかったが、これまでの開幕2戦でも同じような状況のなか、エンジニアたちがしっかりと予選に向けて合わせ込んできた。今回もそれは同様で、好感触を得た阪口は一度アウト～インを行った後、アタックを行っていき、1分06秒171というタイムを記録。コンディションの違いこそあれ、大湯のタイムを上回り3番手につけ、こちらもQ2進出を決めた。

2台がQ1突破を果たしてみせた VERTEX PARTNERS CERUMO・INGINGは、午後2時35分からのQ2に臨んだ。Q1からQ2にかけてはコンディションも変化することもあり、チームはそれを見越してセットアップを修正。2台はコースイン後、集団のなかでアタックの位置取りを行っていく。ただSUGOはタイトで、なかなか思うようにタイヤを温めながらスペースを確保するのは難しい状況だった。

そんな難しさが影響したか、阪口はアタックラップのS字

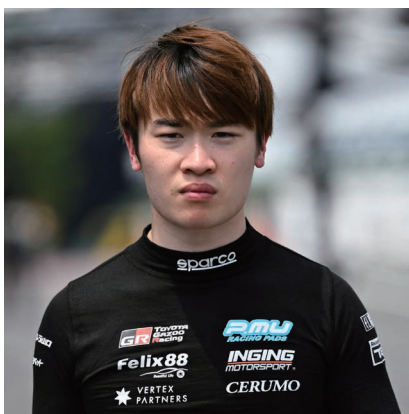
とはいえ、高いレベルで悔しがることできるのは本来の調子が戻ってきたということ。この調子をさらなる結果に繋げるべく、チームは6月23日(日)の決勝に臨んでいく。

ただ気になるのは決勝レースでの天候だ。予選を終えた段階では、決勝日は終日雨の予報が出ている。難コンディションとなったとき、上位をいかに狙うかはチームの総合力が問われるところだ。



COMMENTS

ドライバー／監督コメント



38 阪口 晴南 SENA SAKAGUCHI

「午前からクルマはすごく良くなっていて、予選 Q1 では感触もタイムもすごく向上していました。ただ、ポールポジションが獲れるほどではなかったので、エンジニアと微調整を加えましたが、アタック前の位置取りが難しく、もう少しタイヤをウォームアップさせたいところでした。それでも感触は良かったのですが、S字で失敗してしまって。自分のミスなので反省しています。4～6番手くらいは狙えたので悔しいですね。また持ち込みの状態が悪いのは次の課題だと思います。明日の決勝は天候が読めず本当に分からないことが多いのですが、最善を尽くしていきたいですし、ここまで開幕2戦でポイントが獲れているので、あきらめずに頑張っていきたいです」



39 大湯 都史樹 TOSHIKI OYU

「午前のフリー走行での調子の良さを保とうと午後の予選に臨みましたが、Q1 を走った段階で少し『あれ?』という感触がありました。そこから Q2 に向けてアジャストして臨みましたが、結果は5番手となりました。正直トップ2のタイムは見えない状況で、クルマが悪い感触ではなかったので余計に悔しいですね。明日は5番手スタートとなりますが、今季最高位グリッドですし、展開次第では優勝も狙える位置です。もちろんこの SUGO は抜きづらい部分ではありますが、天候がどうなるか分かりませんし、あきらめずにいきたいですね。いろいろ考えることも多いので、ひと晩しっかりと準備を進めていきたいと思っています」



立川 祐路 監督 YUJI TACHIKAWA

「阪口選手については、今季ずっと予選上位につけられており、Q1 突破を果たすことができましたが、Q2 については攻めた結果のコースアウトだったので仕方がないです。ただ安定して上位で戦っているのも、続けていけばチャンスは来るとしています。また今回大きいのは、大湯選手が良いパフォーマンスをみせてくれたことです。クルマの方向性を変えたことで、本来の走りに戻ってきたのではないのでしょうか。安心して攻められるクルマをやっとチームとして準備できたと思います。もちろんトップを獲らなければいけないのでやるべきことは多いです、明日の決勝レースは天候も読めないで、状況にしっかりと対応して良い結果を残したいと思います」



RACE REPORT

RESULT リザルト

第3戦スポーツランド SUGO 予選結果

Pos.	No.	Driver	Team	Engine	Q1	Q2
1	16	野尻智紀	Red Bull MOTUL MUGEN SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	1'06.050	1'05.244
2	15	岩佐歩夢	Red Bull MOTUL MUGEN SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	1'06.058	1'05.364
3	36	坪井翔	VANTELIN TOM'S SF23	TOYOTA/TRD 01F	1'06.162	1'05.500
4	5	牧野任祐	DOCOMO DANDELION M5S SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	1'06.452	1'05.633
5	39	大湯都史樹	VERTEX CERUMO・INGING SF23	TOYOTA/TRD 01F	1'06.448	1'05.764
6	3	山下健太	REALIZE Corporation KONDO SF23	TOYOTA/TRD 01F	1'06.629	1'05.789
7	6	太田格之進	DOCOMO DANDELION M6Y SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	1'06.380	1'05.862
8	14	大嶋和也	docomo business ROOKIE SF23	TOYOTA/TRD 01F	1'06.059	1'05.934
9	20	国本雄資	ITOCHU ENEX TEAM IMPUL SF23	TOYOTA/TRD 01F	1'06.391	1'05.952
10	4	小高一斗	REALIZE Corporation KONDO SF23	TOYOTA/TRD 01F	1'06.284	1'06.061
11	50	木村偉織	San-Ei Gen with B-Max SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	1'06.573	1'06.433
12	38	阪口晴南	VERTEX CERUMO・INGING SF23	TOYOTA/TRD 01F	1'06.171	1'41.764
13	65	佐藤蓮	PONOS NAKAJIMA RACING SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	1'06.660	
14	64	山本尚貴	PONOS NAKAJIMA RACING SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	1'06.523	
15	7	小林可梦偉	Kids com KCMG Cayman SF23	TOYOTA/TRD 01F	1'06.925	
16	8	福住仁嶺	Kids com KCMG Elyse SF23	TOYOTA/TRD 01F	1'06.630	
17	12	三宅淳詞	ThreeBond Drago CORSE SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	1'06.968	
18	37	笹原右京	VANTELIN TOM'S SF23	TOYOTA/TRD 01F	1'06.900	
19	19	平良響	ITOCHU ENEX TEAM IMPUL SF23	TOYOTA/TRD 01F	1'06.984	
20	53	Juju	TGM Grand Prix SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	1'07.457	
21	55	松下信治	TGM Grand Prix SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	1'07.218	